

1 時制

be 動詞 5、使い分け、過去分詞・現在分詞

原形 be 現在 is, am, are 過去 was, were 過去分詞 been

現在分詞と一緒に進行形、過去分詞と一緒に受動態

現在完了形 (表現、意味 3、よく使う副詞とその意味 9)

現在を基準として時間の幅があることがポイント

- ～したところだ just, yet, already
- ～したことがある ever, never, once, twice, three times, many times, How many times ?, How often ?
- ～し続けている for 期間, since 基準, How long ?

現在完了形と過去完了形の違い

基準が現在なのか過去なのか

完了形と一緒に使えないもの

lately/recently, so far(今までのところ), now(たった今) yesterday, last week[month, year], ago, in 2009, When (いつ～したか) when(～だったとき)

感嘆文 (意味、表現 2、使い分け)

- How 形 S V!
- What a 形 名 S V!

2 受け身

意味、表現、よく使う前置詞とその意味

～される、be 過去分詞、by(～によって)

重要表現

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| ● ～に興味がある be interested in | ● ～でいっぱいだ be filled with |
| ● ～に驚く be surprised at(by) | ● ～を心配する be worried about |
| ● ～で覆われている be covered with | ● ～に喜ぶ be pleased with |
| ● ～に話しかけられる be spoken to by | ● ～に失望する be disappointed with(at) |
| ● ～に知られている be known to | ● ～でケガをする be injured in |
| ● ～で知られている be known for | ● ～に笑われた be laughed at |
| ● ～に満足する be satisfied with | ● ～だそうだ It is said that |

3 文型

第1文型

形

S V

第3文型

形

S V O

第2文型

形、関係、動詞の例

S V C、S=C

- be 動詞
- ～のままである remain (残る)/keep/stay
- ～のようだ look/seem(思われる)/appear(現れる) *seem = look + sound
- ～になる become/get/grow/turn
- ～の感じがする feel/smell/taste/sound

第4文型

形、第3文型への書き換え

S V O1 O2 = S V O2 to(for, of) O1

動詞

目の前に相手が必ず必要なら to、いなくてもその行為ができれば for

to give, show, send, teach, tell, lend
 for buy, make, cook, chose, get
 of ask

第5文型

形、関係

S V O C、O = C

動詞

- | | | |
|----------------------|---------------------|----------------------|
| ● make A を B の状態にさせる | ● find A が B とわかる | ● leave A を B のままにする |
| ● call A を B と呼ぶ | ● paint A を B に塗る | ● elect A を B にえらぶ |
| ● name A を B と名付ける | ● keep A を B のままにする | |

4 助動詞

意味

- can(2) ～することができる、～の可能性がある
- may(2) ～してもよい、～かもしれない
- must(2) ～しなければならない、～のはずだ
- used to(2) かつて～だった、よく～したものだ
- should(2) ～すべき、～のはずだ
- have to ～する必要がある
- Shall we～? ～しませんか
- will ～するでしょう
- be going to ～するつもりだ
- had better ～した方がよい
- ought to ～すべき
- Shall I～? ～しましょうか
- would often よく～したものだ

ought to の否定

ought not to

can の書き換え

be able to

will の書き換え

be going to

must の書き換え

have to

should の書き換え

ought to, had better

used to の書き換え

would often(よく～したものだ)

must の否定

can't

単語

- ～できる can
- ～かもしれない may
- ～はずである must
- ～の可能性がある can
- ～してもよい may
- ～しなければならない must
- かつて～だった used to
- よく～したものだ (2) would often, used to
- ～する必要がある have to
- ～すべきである (2) should, had better
- ～しませんか Shall we?
- ～でしょう will
- ～するつもりある be going to
- ～しましょうか Shall I?
- ～した方がよい had better

be going to の書き換え

will

have to の書き換え

must

be able to の書き換え

can

ought to/had better の書き換え

should

can't の否定

must

過去の表現方法の違い

- 動作に対する時は単純に助動詞を過去形にする。
- 推量の意味の時は完了形を使って過去を表す。

6 不定詞 動名詞

不定詞と動名詞の意味と使い方

不定詞 to do、～すること・～すべき・～ために、not to do

動名詞 doing、～すること、not doing

*イメージとして動名詞が過去・不定詞が未来を表す違いがある

目的語について

- 不定詞と動名詞の両方を目的語にとれる動詞
begin / start / continue / like / love / hate
- 不定詞のみを目的語にとれる動詞
decide / expect / hope / promise / refuse / wish
- 動名詞のみを目的語にとれる動詞
admit(認める) / avoid(叫ぶ) / consider(考える) / deny(否定する) / enjoy / finish / mind(いやがる) / miss / stop / give up / put off
- 目的語が動名詞か不定詞で意味が違う
 - forget doing ～したことを忘れません / forget to do ～するのを忘れないように
 - remember doing ～したことを覚えておく / remember to do ～するのを覚えておく
 - try doing ～してみる / try to do ～しようとする
 - regret doing ～したことを後悔する / regret to do 残念ながら～する

疑問詞 +to do(表現 5、意味、書き換え)

- what to do 何をすべきか
- when to do いつすべきか
- where to do どこですべきか
- which (名詞) to do どれをすべきか
- how to do どのようにすべきか、～のやり方

I don't know what to do. = I don't know what I should do.

S V O to do(5)

- want+O+to(O に～してもらいたい)
- expect+O+to(O が～するだろうと思う [期待する])
- tell/ask/advice+O+to (O に～するよう言う/頼む/助言する)

原形不定詞 2、動詞の例

V 人 do 人が do のを V

知覚動詞 see / watch / look at / hear / listen to / feel / notice(気づく)

使役動詞 make(無理やりさせる) / have(～させる、～してもらう) / let(～させる、～させてやる)

be 不定詞 (意味 3)

- ～なことになっている (予定・義務)
- 従うべき =should
- ～ひとつ... だった =could

不定詞の慣用表現

- ～することは～にとって～だ (2、違い)
It be 形 for(of) 人 to do
of: 人の性質を表す形容詞 kind/good/nice,wise/brave(勇敢な),careless,foolish
- ～するには十分～だ enough 形 to do
- ～するには～すぎる too 形 to do
- ～するために (2) in order to, so as to
- ～したが only to do
- ～し2度と・・・ never to do
- 実を言うと to tell the truth
- いわば so to speak
- 言うまでもなく needless to say
- まず第一に to begin with
- 確かに to be sure
- 簡潔に言えば to be brief
- 奇妙なことに strange to say
- 率直に言えば to be frank with you

動名詞の慣用表現

- ～しませんか how about ing
- ～を楽しみにしている look forward to ing
- ～するのに慣れている be used to ing
- ～する気がしない feel like ing
- ～する価値がある be worth ing
- ～するとすぐに on ing
- 考えざを得ない can't help ing
- ～しても無駄だ It is no use ing
- ～できない there is no ing

7 分詞

基本形 (意味 2、表現 2、使い分け)

名詞を修飾する手段

現在分詞 doing 〜している、過去分詞 done 〜される

修飾語の塊が 1 語なら名詞の前、2 語以上なら名詞の後ろに置く

動詞の補語となる例

- S が C する / C される S+V+C(現在分詞/過去分詞)
 - － keep[remain/look/seem/feel]+ 分詞
 - － come[stand/sit/lie]+ 分詞
- O が C している / C される S+V+O+C(現在分詞/過去分詞)
 - － S+ 知覚動詞 (see/watch/hear/feel)+O+ 分詞
 - － S+ 使役動詞 (make/have)+O+ 分詞
 - － S+keep/leave/find+O+ 分詞

分詞構文のポイント

- 接続詞を省略することができる。
- 主語が同じなら片方省略
- 時制の一致 (1 段階のみのずれは have を使って辻褄を合わせる)
- be 動詞は省略可能

分詞構文の用法 (6)

- 〜とき
- 〜だから
- 〜して
- 〜しながら
- もし〜すれば
- 〜だが

8 関係詞

関係代名詞 (表現 5、使い分け)

- which ものの時に使う
- who 人の主格に対して使う
- that なんでも使えるが the などがついて先行詞が特定されている時にはよく使う
- whom 人の目的格に対して使う
- whose 所有格に対して使う

特別な関係代名詞 (表現 1、使い方、何と等価か)

what = things which ～なもの

関係副詞 (表現 4、使い分け)

先行詞が副詞として関係代名詞節に補う

- where 場所
- when 時
- why 理由
- how 方法

制限用法と非制限用法

- I have a brother who can speak English.
制限用法：兄弟は他にもいるかも知れず、そのうちの一人が英語を話せる。
- I have a brother, who can speak English.
非制限用法：兄弟は一人で、その人が英語を話せる

重要表現

- いわゆる what is called
- さらにいいことには what is better
- さらに悪いことには what is worse
- さらに what is more
- 今 (昔) の～ what S be
- A と B の関係は C と D の関係に等しい
A is to what C is to D

9 比較

比較級 (意味、表現、よく使う前置詞とその意味) —————

～より～だ、形容詞 *er/more* 形容詞、*than*(～より)

最上級 (意味、表現、よく使う前置詞とその意味) —————

一番～だ、*the* 形容詞 *est/most* 形容詞、*in* 集団/*of* 数字 (～のなかで)

比較級・最上級の不規則変化、*good/well/many/much/bad/little/few* —————

- *good/well* *better best*
- *bad* *worse worst*
- *many/much* *more most*
- *little/few* *less least*

同等比較 (意味、表現) —————

as 原級 *as*、～と同じくらい～

比較級と最上級のそれぞれの強調 —————

ずば抜けて～

- 両方 *much*
- 比較級 *far*
- 最上級 *by far*

比較の差を表す前置詞 —————

by (*older than brother by two years*)

慣用表現 —————

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● ～の X 倍 <i>X times as</i> 原級 <i>as</i> ● だんだん～ 比較級 <i>and</i> 比較級 ● できる限り (2)
<i>as</i> 原級 <i>as possible</i>, <i>as</i> 原級 <i>as one can</i> ● ～すればするほど～だ <i>the</i> 比較級, <i>the</i> 比較級 ● どの～よりも <i>than any other</i> 名詞 | <ul style="list-style-type: none"> ● ～ほど～なのはない <i>No one can as</i> 原級 <i>as</i> ● ～というよりはむしろ～ <i>not so much A as B</i> ● 二番目に～ <i>the second</i> 最上級 ● ～するほど馬鹿ではない <i>know better than</i> ● もはや～ない <i>no longer</i> |
|--|---|

than を使わない形容詞 —————

- *superior/inferior to*～(～より優れて/劣って)
- *senior/junior to*～(～より地位が上/下)
- *prefer A to B*(B より A を好む)

10 話法

話法

直接話法 人が言ったことをそのまま英文にする。””で囲まれたもの。S say to 人 ”文言”

間接話法 人が～を言っていたよみtainな感じ、言ったことそのままとは限らない。””がなく時制の一致が行われる。

普通の文 tell 人 that

疑問文 ask 人 間接疑問文

ただの命令文 tell 人 (not) to do

Please の命令文 ask 人 to do

Let's の命令文 suggest 人 that S (should) V

間接疑問文 (疑問詞がある場合とない場合)

疑問詞がない if S V

疑問詞がある 疑問詞 S V または 疑問詞 V

11 仮定法

仮定法、if 文との違い

ありえないことを言うのが仮定法、時制を一つずらす

仮定法未来

- 万が一 S が V するならば **If S should V**
- 仮に S が V するならば **If S were to V**

重要表現

- まるで～ **as if**
- もう～する時間だ **It is time S V**
- もし～がなければ (2) **If it were not for, Without**
- ～さえすればなあ **If only**

前置詞

意味	単語	意味	単語	意味	単語
～の上に	on	～で、～に	at	～の間に（時間）	for
～の下に	under	～といっしょに	with	～の間に（時間）	during
～の中に	in	～の	of	～の間に（場所）	between
～の中へ	into	～のために	for	～の後に	after
～の近くに	near	～によって	by	～の前に	before
～のそばに	by	～のように	like	～について	about
～から	from	～にとって	for	～まで	until
～へ	to	～なしで	without	～までに	by
～以来	since				

接続詞

意味	単語	意味	単語	意味	単語
～と	and	もし～ならば	if	～の前に	before
しかし	but	～の間に	while	～の後に	after
しかし	however	～の時	when	～だが	though
～か	or	なぜなら	because		

差がつく前置詞

意味	単語	意味	単語	意味	単語
～以内に	within	～後に	in	～として	as
～に反対して	against	～賛成して	for	～を通して	through
～の間に（三つ以上）	among	～の上方に	over	～を横切って	across

接続詞と前置詞の違い

接続詞 後ろに S V

前置詞 後ろに名詞